

## パッケージ&ラベル

企画委員： 竹内琢磨

今年の page2014 も調査は最終日に行った為か去年同様に多くの来場者で溢れ、多数のブースで人だかりが出来ていた。今回の僕の調査対象はパッケージ&ラベルについてである。環境対応・小ロット化など注目度が高く page2014 では特設ゾーンとして PACKAGE & LABEL ZONE と名付けられたスペースに 10 社を超える企業が出展していた。また、昨年秋の JGAS ではラベル印刷機やフレキソ製版などの大型機器がたくさん出展されていたが、この page 展では小ロット対応のデジタル機器や製版関連のソフトウェアが中心となっていた。

それでは、それぞれの見どころを紹介しよう。



### ① コダック合同会社

環境に優しい水性フレキソ印刷ソリューションというテーマで、ワールドワイドで 150 社を超す世界中のユーザーから非常に高い評価を得ている Flexcel NX シリーズを紹介していた。そして、Flexcel NX を活用して作成された様々なパッケージや、シール、ラベルなど多様な印刷アプリケーションを示し、ダイレクト彫刻システム Kodak Flexcel Direct を活用して印刷された紙袋などの多彩なサンプルを展示。

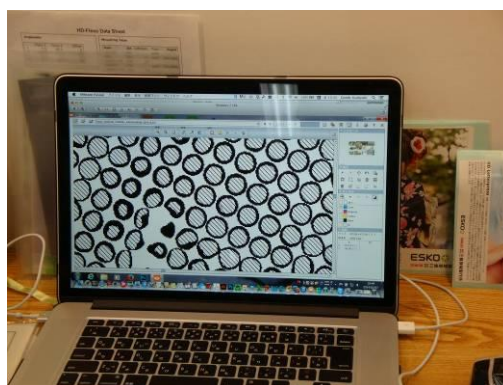


### ② エスコグラフィックス株式会社

世界の 9 割のブランドがこの ESKO 社のソリューションを使いパッケージを生産していると言われる程、業界からの評価が高い。その中で Suite12 の最新版は、パッケージ・ラベル・サインディスプレイと商業印刷に至るまでのプロ向けの統合ソフトウェアソリューションとなっている。



次世代のフレキソ網点技術 (Full HD Flexo) も紹介されていた、網点の中にさらにチェーンドットの様な網点を形成させる独自技術により、インキの定着を良くし、高濃度印刷を可能にさせる。これにより印刷品質の安定・向上が図れると考えられる。



### ③ 株式会社ミヤコシ

/コニカミノルタ株式会社

コニカミノルタのトナー式フルカラーデジタルプリンター BizhubPRESS C7000 とミヤコシのレーザー加工システムを融合し MKD13A/C70RLC が参考出品されていた。想定価格は 3500 万円程とのこと。



コニカミノルタ製プリントエンジンで 1200 x 1200dpi の高解像度の印字により、オフセット印刷並みの品質を可能にし、ミヤコシのレーザー加工システムをインラインに搭載し、抜き胴や抜き型を一切必要とせず、完全無版の完全デジタルのバリエーションを実現している。また、毎分 9m(ロール to レーザー)の高生産性で短納期・小ロットにも十分対応出来るスペックである。

#### ④ デュプロ株式会社



カタログや DM など印刷物を簡単にラッピング出来る小型フィルム包装機 (EW-100) を紹介していた。包装したいものを差し込み口へ手差しするだけでラッピングしてしまい、機械が自動的に包装物の厚みと長さを検知する為にスキルレスで、誰でも簡単に扱うことが出来る。

#### ⑤ 富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社

GRANPACS 富士トレリーフシリーズで近日発売予定の UV フレキシ印刷 LAM (黒マスク) 版 GL-F 4X のパネル・印刷物展示がされていた。水現像方式となっており、従来の富士トレリーフ CTP 版と同じ設備で現像処理が可能である。



#### ⑥ 株式会社メディアテクノロジージャパン



UV インクジェットラベルプリンティングシステム TruepressJetL350UV のパネル展示がされており、印刷サンプルを配布していた。プロセスインキを超える色再現性や高画質スクリーニングによる滑らかな階調表現で細かな文字までしっかり印字出来るところが魅力となっている。また、今年にはホワイトインクもオプションにより搭載出来るとのことで、さらに活用できるメディアの幅が広くなると思われる。

Roland の溶剤プリンターと CGS ORIS の CMS ソフトウェアを組み合わせた True Pack Proof システムも紹介されており、パッケージのデザインモックアップ作成に活躍できるソリューションと感じた。

